

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701039		
法人名	医療法人社団 問端会		
事業所名	グループホームといはた あせび棟		
所在地	熊本県阿蘇市内牧117番地		
自己評価作成日	令和元年7月7日	評価結果市町村受理日	令和元年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	令和元年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉の源泉を引いており掛け流しで、気持ちいい入浴を提供しています。毎月、御家族宛に手紙をお送りしホームでの生活状況や個別ケアの状況、行事の状況、お小遣いの収支報告など記載し情報提供を行っている。又、面会時にも近況をお伝えしている。毎月、勉強会を開催し、スキルアップに努めています。毎月、季節折々の行事を計画している。時に地域へ出向き支援している。余暇ではゴルフや縫い物など趣味を楽しめるように支援している。かかりつけ医院が徒歩圏内にあり、健康に対して不安なく安心して生活を支援しています。職員は毎月、ホーム内勉強会や外部の研修会に参加しスキルアップを図っている。又、職員の考査を行っておりスキルアップ、質の向上に努めている。職員の些細な意見が反映できるように意見箱を設置したことで改善が図れている。又、毎月身体拘束についても職員で考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

* ホームは内牧温泉街の中にあり、温泉を引いた浴場まで長い廊下を歩いて行くため、温泉行きの気分を味わうことができ、入居者の大きな楽しみとなっている。* 入居者・職員、ホーム皆のコミュニケーションがよく図られており、笑い声も多く聞かれ、明るく楽しい雰囲気にも包まれている。職員からも、お互いに注意し合ったり助け合ったりできる働きやすい職場であるとの声が聞かれている。* 習字が得意、手芸が得意、花が好き、カラオケが好き、読書が好きなど、一人ひとりの意向を十分把握し、意向に沿った生活ができるよう支援している。* 隣接する母体医院との連携がよく図られており、入居者・家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに理念を掲示いつでも見れるようにしており、理念を思い出し業務にあたることで実践につなげている。	理念を、玄関・事務所・各ユニット等ホーム内の数か所に掲示するとともに、勉強会で理念について話し合う機会を持つなど、職員への浸透に努めている。理念にそぐわないと思われるケアが見られた際は、その場で注意し理念を確認し合い、入居者のペースに合わせた穏やかな暮らしの継続に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内行事で地域に出向いたり、入居者様と買物へ出かけたりし交流を図っている。	入居者と一緒に地域に買い物に出かけたり、地域の方が野菜を持ってきてくれたりと、日常的に交流が行われている。避難訓練の際は近隣にチラシを配布して、数軒の参加を得ている。小・中学校生の体験学習、高校生の実習受け入れや、保育園の夏祭りへの参加などの交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会、中学生の職場体験や高校生の福祉実習の際に話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事活動報告や実際の介護で取り組んでいる事、職員の勉強会で学んだ事などテーマを決め意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	地域の全民生委員・保育園長・地域代表・利用者代表・家族代表・市担当者等をメンバーに、2ヶ月に1回開催。行事・活動報告後、毎月テーマを決めて活発な意見交換を行っている。テーマは年度初めに年間計画を配布し、委員の理解が進むよう配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月ごとの運営推進会議に市の担当者をお招きし出席され、事業所の実情やケアの取り組みを伝えたり、細かな事でも市担当者と連絡を密に取り、事業所の実情を伝え情報共有を行っている。又、今年在宅へ戻られたご入居様のことについて連携を取り協力関係を築いている。介護相談員の受け入れを行い、実情も伝えている。	市担当者は、運営推進会議に毎回出席しており、ホームの実情について把握しているとともに、運営上の疑問点等、その都度気軽に確認する等の関係ができています。また、介護相談員が毎月来訪して入居者の話を聞くことで、新しい気づきを得てケアに活かされることもあり、市との協力関係が確認できました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護報酬改定で身体拘束等の適正の推進により毎月、身体拘束対策委員会でテーマを決めて定例会で発表したり、勉強会で理解を深めたり、事故報告書やひやり・ハットで拘束をしない対策を講じている。玄関の施錠は防犯上、夜間のみ使用している。	毎月、「身体拘束対策委員会」を開催し、日常での気になる事例等について検討し、さらに勉強会で全職員で話し合っている。ヒヤリハット事例を積極的に提出するよう促し、事故や拘束が起きないように安全対策について検討している。また、職員のストレスチェックを行っており、ストレスをお互いに打ち明けられる環境・お互いに支え合う環境づくりに努め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束対策委員会より啓発したり、外部研修や勉強会で虐待について理解を深めている。虐待の新聞記事があると掲示したり定例会で職員全員で意見を言い合い、考えているようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で理解を深めたり、実際にご入居者様の中に後見人を活用されている方がおられる為、職員一丸となって理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は内容を読みながら理解して頂くよう説明を行い、同意を得た上で署名・捺印を頂いている。その際に、不安や疑問点があれば説明を行い解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご入居者様や面会時にご家族様より要望や意見を聞くように努めている。又、ご意見箱を設置したり、家族会や運営推進会議でご意見やご要望を聞かせて頂き運営に反映している。	年1回、家族会を開催して多くの家族の参加を得ており、ホームの生活の様子等について報告後、昼食会を行い、意見・要望等を聞いている。運営推進会議に家族代表として順番に参加してもらうよう依頼し、ホームへの理解を深めてもらうとともに、意見の把握に努めている。また、毎月、入居者の近況を記したお手紙を家族に送付し、喜ばれている。	入居者の日常の様子等を写したアルバムを作成し、家族の面会時に見てもらっているが、面会が少ない家族もあり、お手紙に入居者の最近の表情を伝える写真を添えると、さらに安心を与えることができると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在、職員の意見をより身近に聞けるように、職員からの意見箱を設置し定例会で発表し運営について考えたり、主任会議、定例会や各種会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けて反映している。	毎月の定例会や棟会議の他、職員の意見箱を設置し、意見・提案等を聞く機会を設けている。日頃のケアの中でも、常に職員と管理者間でのコミュニケーションを取りやすい環境である事が確認できた。職員の意見・提案等はすぐに検討し、取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格や能力に応じて給与を支給している。又、職員の技能や得意分野に応じて委員会や係りを割り当てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の一人ひとりの力量によって指導方法を変えたり、個別的に介護を指導している。ホーム内の勉強会ではテーマに沿った資料の準備から講義を各担当で行い、レベルアップに努めている。又、初任者研修や介護福祉士、介護支援専門員の資格取得ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員も時に地域密着型サービス連絡会・研修会に出席し交流を行ったり、去年の3月には熊本県認知症介護指導者を講師に招き、GHで認知症を支えるということについて勉強会を行った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とよくコミュニケーションを図り、困っていることや不安なことがないか傾聴し、本人様より安心される関係が作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困りごと、不安なこと、ご要望を良く聞いてご家族様との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様にとって今何が必要か、しっかりと話し合い支援している。又、他のサービスがあればその都度、検討しサービス計画に盛り込み最善のケアに当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、洗濯物干しやたたみをしたり、掃除をしたり、以前医師をされていた経歴を活かし、不定愁訴のある方の話の聞かれ共に支えあい過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や密な電話連絡で日頃の様子をお伝えし、一緒にご本人様を支え合う関係を築き、互いに喜びを分かちあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ユニットを越え、馴染みの方や親族の方がおられるので、会いに行かれたり、馴染みの理容店に出向いたり、年に1回は故郷巡りができるように支援している。	年1回、故郷巡りのドライブを行ったり、以前から利用している理容店や駄菓子屋などに出かけ、馴染みの関係継続に努めている。また、友人・知人の来訪や、家族の面会が少ないときは電話して来訪を促す等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットを越え、交流を図ったり、ご入居者様同士の会話を大切にして、互いによりよい関係となるように支援している。個々の性格等を考慮しリビングやダイニングの席替えも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設に入居され退居されたご家族様がホームに来られお話をしたり、死去され退居されたご入居者様のご家族様がホームに来られたりよりよい関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に希望や意向をお伺いし、ケアプランやケアにつなげている。困難な方には、昔の暮らしや性格を汲み取りその方によりよい暮らしとなるように支援している。	入居時の聞き取りの際に、好きな事・嫌いな事・得意な事など詳細に聞き取り、ケアに活かしている。習字が得意、手芸が得意、花が好き、カラオケが好き、読書が好きなど、一人ひとりの意向に沿った生活ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にこれまでの生活をお伺いし把握に努めている。これまでの生活スタイルを出来るだけ希望を添えられるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様やご家族様、主治医、ケアマネから情報収集し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	棟会議で、課題やケアについて話し合いをし、介護計画を作成し、それに基づいたケアを実施して改善点を出し合い更に現状に即した介護計画を作成している。	入居時の聞き取り内容で暫定プランを作成し、2ヶ月程状況を見て担当者会議で話し合い、本プランを作成している。日々の気になった事などは申し送りノートに記録し、記録をもとに、毎月の棟会議で全入居者の状態について話し合い、プランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日々の申し送り、棟会議で情報共有を図り実践や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生するニーズに対して、柔軟な支援を行っている。例えば、ご本人様はテレビ欄を確認したく他の方の新聞を閲覧しており、ご家族へその旨伝えるも新聞を取られる事に抵抗されており、ご本人様へテレビにて番組が確認できる事を伝えることで柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への買物や地域の散髪屋を利用したり、毎日のように内牧管内の自宅に戻れるので地域の方に御家族からの声かけをしてもらい今でも安全で豊かな暮らしを支えられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様より希望の受診がある際は、かかりつけ医へ報告し診察が受けられるように支援している。又、他科受診の希望の際も紹介状を持って専門医への受診も行っている。	入居者・家族の納得のもと、かかりつけ医は全員隣接の母体医院としている。週1～2回の定期的診察と週1回の訪問看護でかかりつけ医との密な連携が図られており、入居者・家族の安心を得ている。必要に応じ、訪問歯科の利用も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に情報のやり取りを行い、情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報提供し、安心して入院できるよう支援していた。又、職員も見舞いに行き状態把握に努め、病院関係者と連携し退院がスムーズに出来るように支援していた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明している。又、そのような状態の時は、密にご家族様、医療関係者と話し合いを設けチームで支援できるように取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合の対応について説明し、「看取りについての事前確認書」を記入してもらい意向を確認している。重度化した際には「看取りプラン」を作成し、主治医・訪問看護との連携を図り家族と密に話し合いを重ね、より良い最期となるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、適切な行動が出来るよう勉強会や定例会で話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の対応について勉強会を開催したり、年に2回の消防署立会いの避難訓練を行い、地域の方に来て頂き協力体制を築いている。	年2回、消防署立ち合いの避難訓練を実施。運営推進会議委員や地域の方にも参加を呼びかけ、避難した入居者の見守り等の協力を得ている。各部屋には「独歩」「車いす」等本人の状態と、裏面には「避難済」と記載した札が掛けてあり、効率的な避難に役立っている。水害・地震・阿蘇の噴火等の災害にも備え、勉強会を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには些細に注意している。声のかけ方と声のトーンにも注意している。言葉遣いについては勉強会で話し合っている。	呼びかける際は「～ちゃん」は使わず、「～さん」と呼ぶようにしており、学校の先生や医師だった人には「～先生」と呼ぶなど、個々に応じて配慮している。接遇マナー研修も実施しており、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択がある時は必ず選んで頂き、自己決定が出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	棟会議やその都度、職員と話し合いを行い、入居者様の思いが優先されているか確認し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に行い身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。服の着こなしもご本人様の好みに合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操にて食事が楽しみになるように支援している。野菜の下ごしらえや片付けが出来るように支援している。好き嫌いも考えたメニューと形態にも配慮している。	給食委員会の職員3名で、季節感や入居者の希望を取り入れながら週ごとに献立を作成し、家庭的な食事を提供している。食材の買い物には入居者と一緒に出掛けている。当日は、サラダに入れるソーセージを切ったり、だご汁のだごをつくる入居者の姿が見られた。職員は入居者と同じテーブルで、会話しながら同じ食事を摂っており、明るく楽しい食事の時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材で硬いものが食べれない方には、刻み食等にして栄養が摂れる様に支援している。水分補給は定期的以外にもこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔状態に応じて訪問歯科診療を受け口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個々人に応じたトイレへの声かけや誘導を行い、失敗を減らすように努めている。	排泄は、見守りのみの方が10名。他の方も日中はできるだけ働きかけてトイレ誘導し、排泄の自立支援に努めている。トイレは必ずカーテンを閉め、開けるときは声掛けをし、おむつ替えの際は必ず部屋のドアを閉める等の配慮を徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ゆっくりとトイレが済まされるように急かさず、体動がある方でもトイレの外で見守りを行い、プライバシーに配慮している。又、体操や水分補給、マッサージを行ったり、必要に応じて下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、気持ちよく入浴して頂く為に、ご入居者様のペースに合わせて支援している。入湯が困難な方には、シャワー浴を行っている。	入浴日は週2日。温泉を引いた浴場まで長い廊下を歩いて行くため、温泉行きの気分が味わえる。両棟にユニットバスもあり、入浴日以外の入浴希望にも対応している。長湯が好きな人、短時間で済ませたい人など、個々のペースに合わせた入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じて休息支援を行っている。又、気持ちよく休んで頂ける様に、照明や定期的なシーツ交換、室温湿度に注意したり、季節に応じて寝具調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事書にて理解を深めている。内服変更時は申し送り様子観察を行い、変化があれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の継続、買物、草むしりの役割、裁縫趣味活動を継続し気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物支援や家族支援による外出、行事での外出、近所の公園の散歩を行い、気分転換が図れるように支援している。	日常的な散歩・買い物等での外出の他、桜・紫陽花見学、紅葉狩り、故郷訪問等でドライブを楽しんでいる。また、毎日自宅に戻りグラウンドゴルフを楽しむ人、飴を買いに出かける人や、家族との外出を楽しむ人など、それぞれの希望に応じた外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本、事業所に預かっているが、欲しい物の希望があれば使えるようにしている。利用者様の力に応じてご本人様が所持され買物をされたり散髪をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおられ、電話をされている。又、事業所に御家族様から電話があった際には電話を代わって支援している。又、ご親友などから手紙が届いた際には、やり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、居心地よく過ごして頂ける様に室温湿度に注意したり、生活感を感じてもらえるように時に、園芸を昨年より行っており野菜を見て頂いたりして空間作りを行っている。	玄関に立つとセンサーが鳴り、正面の事務室で人の出入りを確認することができる。玄関やリビングの壁には入居者の作品である大きなキルトの作品や習字、職員が留意すべきことなどが掲示されている。玄関や廊下などの各所に、いつでも入居者が休憩できるようソファが置かれている。リビングから出られる広い木造りのベランダにはたくさんの洗濯物が干され、ベランダ横にはトマト・ミニトマトなど野菜が実っており、穏やかに居心地よく過ごせる共用空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のいろんな箇所に椅子を設置し、一人になれる場所作りや気の合ったご入居者様同士で過ごせるようにソファを設置したりし居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持ち込みして頂き、写真や手紙等を飾って居心地の良い環境作りを行っている。	文机・鏡台・衣装ケース・衣装掛け・テレビなど、それぞれ馴染みの物を持ち込んでいる。壁に、家族写真のいくつかの小さな額をきれいに組み合わせて飾ってある部屋、出窓に鉢植えの花が置かれている部屋、趣味のキルト作品や小物等をつくるための材料や裁縫道具などが置かれている部屋など、それぞれが自分の部屋として安心して過ごせる居室づくりが見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室に名前を書いて分かるように支援している。台所に位置やリビングの位置、居室への往来が見渡せて誰がどこにおられるかを把握し自由かつ安全に行動ができるような環境作りを工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701039		
法人名	医療法人社団 問端会		
事業所名	グループホームといはた はぎ棟		
所在地	熊本県阿蘇市内牧117番地		
自己評価作成日	令和元年7月7日	評価結果市町村受理日	令和元年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和元年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉の源泉を引いており掛け流しで、気持ちいい入浴を提供しています。毎月、御家族宛に手紙をお送りしホームでの生活状況や個別ケアの状況、行事の状況、お小遣いの収支報告など記載し情報提供を行っている。又、面会時にも近況をお伝えしている。毎月、勉強会を開催し、スキルアップに努めています。毎月、季節折々の行事を計画している。時に地域へ出向き支援している。余暇ではグランドゴルフや縫い物など趣味を楽しめるように支援している。かかりつけ医院が徒歩圏内にあり、健康に対して不安なく安心した生活を支援しています。職員は毎月、ホーム内勉強会や外部の研修会に参加しスキルアップを図っている。又、職員の考査を行っておりスキルアップ、質の向上に努めている。職員の些細な意見が反映できるように意見箱を設置したことで改善が図れている。又、毎月身体拘束についても職員で考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに理念を掲示しいつでも見れるようにしており、理念を思い出し業務にあたることで実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内行事で地域に出向いたり、入居者様と買物へ出かけたりし交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会、中学生の職場体験や高校生の福祉実習の際に話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事活動報告や実際の介護で取り組んでいる事、職員の勉強会で学んだ事などテーマを決め意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月ごとの運営推進会議に市の担当者をお招きし出席され、事業所の実情やケアの取り組みを伝えたり、細かな事でも市担当者との連絡を密に取り、事業所の実情を伝え情報共有を行っている。又、今年在宅へ戻られたご入居様のことについて連携を取り協力関係を築いている。介護相談員の受け入れを行い、実情も伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護報酬改定で身体拘束等の適正の推進により毎月、身体拘束対策委員会でテーマを決めて定例会で発表したり、勉強会で理解を深めたり、事故報告書やひやり・ハットで拘束をしない対策を講じている。玄関の施錠は防犯上、夜間のみ使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束対策委員会より啓発したり、外部研修や勉強会で虐待について理解を深めている。虐待の新聞記事があると掲示したり定例会で職員全員で意見を言い合い、考えているようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で理解を深めたり、もう一つのユニットで、実際にご入居者様の中に後見人を活用されている方がおられる為、職員一丸となって理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は内容を読みながら理解して頂くよう説明を行い、同意を得た上で署名・捺印を頂いている。その際に、不安や疑問点があれば説明を行い解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご入居者様や面会時にご家族様より要望や意見を聞くように努めている。又、ご意見箱を設置したり、家族会や運営推進会議でご意見やご要望を聞かせて頂き運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在、職員の意見をより身近に聞けるように、職員からの意見箱を設置し定例会で発表し運営について考えたり、主任会議、定例会や各種会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けて反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格や能力に応じて給与を支給している。又、職員の技能や得意分野に応じて委員会や係りを割り当てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の一人ひとりの力量によって指導方法を変えたり、個別的に介護を指導している。ホーム内の勉強会ではテーマに沿った資料の準備から講義を各担当で行い、レベルアップに努めている。又、初任者研修や介護福祉士、介護支援専門員の資格取得ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員も時に地域密着型サービス連絡会・研修会に出席し交流を行ったり、去年の3月には熊本県認知症介護指導者を講師に招き、GHで認知症を支えるということについて勉強会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とよくコミュニケーションを図り、困っていることや不安なことがないか傾聴し、本人様より安心される関係が作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困りごと、不安なこと、ご要望を良く聞いてご家族様との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様にとって今何が必要か、しっかりと話し合い支援している。又、他のサービスがあればその都度、検討しサービス計画に盛り込み最善のケアに当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、洗濯物干しやたたみをしたり、掃除をしたり、話の聞き上手なご入居者様に相談を持ちかけたりと共に支えあい過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や密な電話連絡で日頃の様子をお伝えし、一緒にご本人様を支え合う関係を築き、互いに喜びを分かちあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ユニットを越え、馴染みの方や親族の方がおられるので、会いに行かれたり、馴染みの理容店に出向いたり、年に1回は故郷巡りができるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットを越え、交流を図ったり、ご入居者様同士の会話を大切にして、互いによい関係となるように支援している。個々の性格等を考慮しリビングやダイニングの席替えも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設に入居され退居されたご家族様がホームに来られお話をしたり、死去され退居されたご入居者様のご家族様がホームに来られたりよりよい関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に希望や意向をお伺いし、ケアプランやケアにつなげている。困難な方には、昔の暮らしや性格を汲み取りその方によりよい暮らしとなるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にこれまでの生活をお伺いし把握に努めている。これまでの生活スタイルを出来るだけ希望を添えられるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様やご家族様、主治医、ケアマネから情報収集し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	棟会議で、課題やケアについて話し合いをし、介護計画を作成し、それに基づいたケアを実施して改善点を出し合い更に現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日々の申し送り、棟会議で情報共有を図り実践や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生するニーズに対して、柔軟な支援を行っている。例えば、ご入居されていた方が、ご家族の支援もあり退居されたが、継続して同じ環境で支援が受けられるよう同法人の通所介護につなげ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への買物や地域の散髪屋を利用したり、反対の棟では毎日のように内牧管内の自宅に戻られるので地域の方に御家族からの声かけをしてもらい今でも安全で豊かな暮らしを支えられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様より希望の受診がある際は、かかりつけ医へ報告し診察が受けられるように支援している。又、他科受診の希望の際も紹介状を持って専門医への受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に情報のやり取りを行い、情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報提供し、安心して入院できるよう支援していた。又、職員も見舞いに行き状態把握に努め、病院関係者と連携し退院がスムーズに出来るように支援していた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明している。又、そのような状態の時は、密にご家族様、医療関係者と話し合いを設けチームで支援できるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、適切な行動が出来るよう勉強会や定例会で話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の対応について勉強会を開催したり、年に2回の消防署立会いの避難訓練を行い、地域の方に来て頂き協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには些細に注意している。声のかけ方と声のトーンにも注意している。言葉遣いについては勉強会で話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択がある時は必ず選んで頂き、自己決定が出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	棟会議やその都度、職員と話し合いを行い、入居者様の思いが優先されているか確認し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に行い身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。服の着こなしもご本人様の好みに合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操にて食事が楽しみになるように支援している。野菜の下ごしらえや片付けが出来るように支援している。好き嫌いも考えたメニューと形態にも配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材で硬いものが食べれない方には、刻み食等にして栄養が摂れる様に支援している。水分補給は定期的以外にもこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔状態に応じて訪問歯科診療を受け口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個々人に応じたトイレへの声かけや誘導を行い、失敗を減らすように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ゆっくりとトイレが済まされるように急かさず、体動がある方でもトイレの外で見守りを行い、プライバシーに配慮している。又、体操や水分補給、マッサージを行ったり、必要に応じて下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、気持ちよく入浴して頂く為に、ご入居者様のペースに合わせて支援している。入湯が困難な方には、シャワー浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じて休息支援を行っている。又、気持ちよく休んで頂ける様に、照明や定期的なシーツ交換、室温湿度に注意したり、季節に応じて寝具調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事書にて理解を深めている。内服変更時は申し送り様子観察を行い、変化があれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の継続、買物、マッサージ等での役割、カラオケ、書道等の趣味活動を継続し気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物支援や家族支援による外出、行事での外出、近所の公園の散歩を行い、気分転換が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本、事業所に預かっているが、欲しい物の希望があれば使えるようにしている。利用者様の力に応じてご本人様が所持され買物をされたり散髪をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおられ、電話をされている。又、事業所に御家族様から電話があった際には電話を代わって支援している。又、ご家族様などから手紙が届いた際には、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、居心地よく過ごして頂ける様に室温湿度に注意したり、生活感を感じてもらえるように時に、園芸を昨年より行っており野菜を見て頂いたりして空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のいろんな箇所に椅子を設置し、一人になられる場所作りや気の合ったご入居者様同士で過ごせるようにソファを設置したりし居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持ち込みして頂き、写真や手紙等を飾って居心地の良い環境作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室に名前を書いて分かるように支援している。台所に位置やリビングの位置、居室への往来が見渡せて誰がどこにおられるかを把握し自由かつ安全に行動ができるような環境作りを工夫している。		